

新病院長就任のごあいさつ



新病院長 早田 邦康

この度、令和3年4月1日付をもちまして聖蹟会埼玉県中央病院の病院長を仰せつかりました早田邦康（そうだくにやす）と申します。前職は、自治医科大学附属さいたま医療センター循環器病臨床医学研究所の所長を務めておりました。

昭和55年に自治医科大学医学部を卒業しておりますが、卒業後は自治医大卒業医師の義務としてのへき地医療に従事するために出身地の佐賀県に戻り、離島などのへき地診療所や地域中核病院で9年間地域医療に従事してまいりました。義務年限終了後の平成元年6月には、医学研究に取り組むために母校である自治医科大学の付属病院であるさいたま医療センター（当時は大宮医療センター）に入職しました。入職後も自治医大設立の理念に基づき、自治医大卒業医師が勤務する全国の診療所や病院などの施設の診療の手伝いのために、北は北海道から南は九州まで出向いてへき地医療に従事してきました。

自治医大さいたま医療センターでは、実に31年10ヶ月の長きにわたり診療・教育・研究に従事させていただきました。臨床の間では

主に一般・消化器外科を担当し、栄養サポートチーム（NST）も立ち上げから関わってきました。また研究も医療センター開設直後から関わることができ、さいたま医療センターの在職中にはNew York（米国）のPicower Institute for Medical Researchという研究所での1年間の研究生活も経験させていただきました。

Picower研究所で出会ったポリアミンという物質に興味をいただき、帰国後も研究を継続・発展してまいりました。研究のターゲットが老化防止と健康寿命延伸というテーマであったために、一般の方々から大きな関心を寄せていただき、「たけしの家庭の医学」や「世界一受けたい授業」などをはじめとするたくさんのマスメディアに取り上げていただきました。非常に貴重で楽しい体験をさせていただいたと感謝いたしております。

振り返ってみると、様々な経験をさせていただくことができた職業人生だと感謝しております。これから、皆様のお力をお借りしながら、これまでの経験を活かして病院や皆様方、そしてなにより地域の皆様とご家族の方々に少しでもお役に立てるように精進してまいりたいと思っております。

なお、いまだ新型コロナウイルスが猛威を振るっています。私が述べるまでもないとは思いますが、職員におかれましても、職業人としてのプロ意識の下で感染対策に万全を期し、プライベートな時間帯でも一市民として感染防御策を徹底した生活を過ごしていただきたいことをお伝えし、病院長の新任のご挨拶とさせていただきます。

プロフィール

経歴

1980年	自治医科大学医学部卒業
1980年	佐賀県離島診療所など僻地勤務
1989年	自治医科大学 附属さいたま医療センター 助手
1996～ 1996年	The Picower Institute for Medical Research Staff Investigator
2005年	自治医科大学大学院 講師
2007年	自治医科大学 准教授
2015年	自治医科大学 教授
2016年	自治医科大学附属さいたま医療センター 循環器病臨床医学研究所 所長

主な所属学会および専門医など

- ・医学博士
- ・日本外科学会 専門医、指導医
- ・日本消化器病学会 専門医
- ・日本臨床栄養代謝学会 認定医
- ・日本ポリアミン学会 評議員
- ・日本病態栄養学会 評議員

一般の方向けの単行本

- 日本人はなぜ長寿世界一になったか
(現代書林)
- 納豆一日一パックの若返り術 (グラフ社)

嚥下内視鏡検査を用いた摂食嚥下障害の評価と症例検討会

昨年11月24日、当院にて北足立郡市歯科医師会と、東京医科歯科大学との摂食嚥下に関する合同オンライン臨床研修会を開催しました。当院の摂食嚥下リハビリテーション外来にて、嚥下障害を主訴に来院した患者様2名に対し、当院の歯科・口腔外科医師が診療支援者となり、オンライン上で診療を行いました。

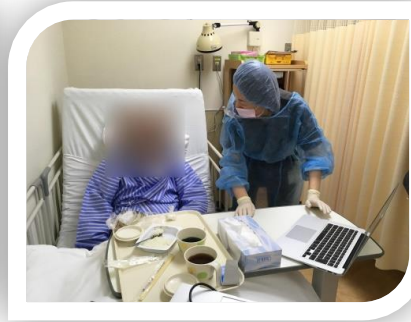
まず問診（原疾患・服薬状況、摂食状況など）を行い、食事場面の観察や嚥下内視鏡検査を実施しました。その様子を地域歯科医師会の歯科医師がオンラインで見学され、精神・身体機能の評価および、口腔・咽頭機能の観察におけるポイント、嚥下内視鏡検査の評価法、推奨される訓練法に至るまでを、診療の流れに沿って解説を行いました。

研修後の評価において、オンラインによる摂食嚥下障害のある患者様の臨床研修は、今後の臨床に活かせるとの意見や、研修をまた受けたいとの意見が多数ありました。

近年、高齢者による誤嚥性肺炎が増加していますが、新型コロナウイルス感染症流行の影響のために、すぐに受入先の病院が見つかるか分からない状況です。そのため、嚥下の評価と予防が大切です。当院では毎週月曜日、歯科医師の並木先生による摂食嚥下の評価と、リハビリテーションを行っています。飲み込みが悪いなど、気になる症状があれば、歯科・口腔外科までご相談ください。

※ 嚥下（えんげ）とは…… 食べ物を口の中で噛み、飲み込みやすい大きさに変えて口から喉、食道、胃へ飲み送り込むことです。

オンライン臨床研修の取り組み



栄養サポートチームのお知らせ

栄養サポートチーム (NST)



医師・歯科医師



薬剤師



管理栄養士



看護師

「栄養サポートチーム (NST)」とは、多職種が専門的な知識を持ち寄り、入院患者様の治療が円滑に進むように栄養面からサポートを行うチームです。栄養療法は、あらゆる疾患の患者様にもっとも基本的な医療の一つです。栄養状態が良くなれば、薬の効果も上がり、感染症や合併症および褥瘡（とこずれ）を予防することができ、治療やリハビリの効果が高まるのが期待されます。

当院では医師・歯科医師・看護師・薬剤師・管理栄養士で栄養サポートチームを構成し、患者様が入院された際、栄養状態や嚥下（飲み込み）について、主治医の指示があれば、当チームが介入して栄養管理を実施し、一日も早い回復を支援いたします。

編集後記

先日、ムスカリの花を見つけました。花言葉は「明るい未来」です。

新型コロナウイルスの感染拡大と変異に伴い、不安やストレスを感じる方が多いと思いますが、一日も早い収束を願うばかりです。

ニュースレター

院外報 1月号 令和3年1月21日発行 第25号

編集・発行

〒363-0008 埼玉県桶川市坂田1726

医療法人財団 聖蹟会 埼玉県中央病院 総務課

TEL 048-776-0022